

もも・ネクタリン特報

生育は昨年よりも5～7日程度進んでいる状況で、結実も判明してきました。順次摘果作業を進めましょう。また、せん孔細菌病多発園を中心に、春型枝病斑が多数見られております。引き続き枝病斑の除去と薬剤散布を徹底しましょう。



もも・ネクタリン共通

- せん孔細菌病の発生園は、通常展着剤に代えて固着性展着剤 KK ステッカーの3,000倍を使用する。

*KK ステッカーは調合液を攪拌させながら、最後に加用する。*KK ステッカーに代えて、アピオンEの1,000倍でもよい。

- 樹勢が弱い場合、葉色が薄い場合は、葉面散布・追肥により改善を図りましょう。(特報No.4裏面を参照)

もも

第6回 定期防除

散布時期：第5回散布から10日以内（5月23日～29日）

散布薬剤：	水	100ℓ	
	展着剤	20ml	
	デランフロアブル	100ml	(7日前、4回)
	アルバリン顆粒水溶剤	50g	(前日、3回)
	マイコシールド	66g	(<u>21日前</u> 、5回)

散布日	5月	日
散布量		ℓ

対象病虫害：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、
モモハモグリガ、アブラムシ類、シンクイムシ類

10a 当り散布量：500ℓ

ネクタリン

第6回 定期防除

散布時期：第5回散布から10日以内（5月23日～29日）

散布薬剤：	水	100ℓ	
	展着剤	20ml	
	デランフロアブル	100ml	(14日前、2回)
	アルバリン顆粒水溶剤	50g	(前日、3回)
	マイコシールド	66g	(<u>28日前</u> 、5回)

散布日	5月	日
散布量		ℓ

対象病虫害：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、
シンクイムシ類、モモハモグリガ、アブラムシ類、カメムシ類

10a 当り散布量：500ℓ

【注意事項】

- ① 隣接する園地や収穫中の作物への飛散に十分注意する。ももとネクタリン混植園は、ネクタリン防除を実施する。
- ② せん孔細菌病の発生がない園地では、マイコシールドを使用しなくてもよい。
- ③ アルバリン顆粒水溶剤に代えて、ダントツ水溶剤の4,000倍（もも7日前・ネク3日前、3回）でもよい。

裏面には基本的な管理情報が掲載されております。必ずご覧ください

1、仕上げ摘果の時期

- 満開 40～50 日後頃に実施（本年は、5 月 25 日～6 月 15 日頃が目安）＊H28 白鳳満開 4/17、ファンタジア 4/16

2、仕上げ摘果の要領

- 成木 10 a 当りの目標着果量は、10,000～12,000 果とする。樹勢が弱い場合は、着果制限する。
- 残す果実は、大きくて扁平な果実を残す ・着果位置は、結果枝の側方、斜め下方の果実を残す
- 長果枝（30cm 以上）が 2 果、中果枝（10～30cm）が 1 果、短果枝（3～10cm）が 6～10 枝に 1 果着果させる ＊図 1 参照
- 最終着果量は、品種や樹勢、着果部位等を見て決める ＊図 2 参照
- 順序は、極早生種・白鳳・あかつき・なつっこ・白根 → 川中島白桃・ネクタリン → 黄金桃とする（黄金桃やファンタジアは生理落果が多いため、やや遅めに実施する）
- 葉枚数は、モモが 1 果当り 40～60 枚、ネクタリンが 30～40 枚必要

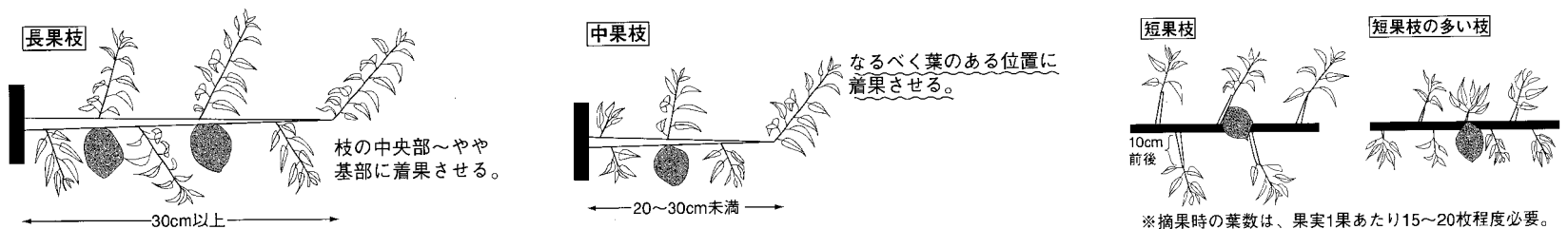
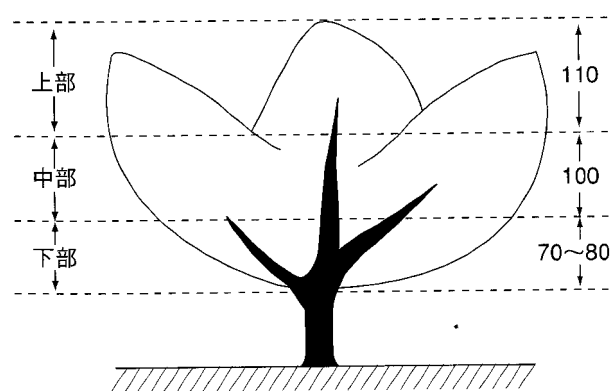


図 1 結果枝別の最終着果量

3、仕上げ摘果の留意点

- 大きくて丸味のある果実は、双胚果の可能性が高く、生理落果発生の要因にもなるので摘果する。 ＊図 3 参照
- 毎年生理落果や双胚果が多い園や品種では、仕上げ摘果でも多めに残しておき、袋掛け前に修正する。
- 無袋栽培は、枝葉の繁茂によって、果実が見えにくいため着果過多や着果ムラになりやすいので、枝を持ち上げて下方からよく見て実施する。



樹冠中部の着果量を100とした場合

- 玉張りの悪い下部は70～80程度と少なめにする。
- 玉張りのよい樹冠上部は110程度と多めに残す。

図 2 樹冠部位置別着果程度

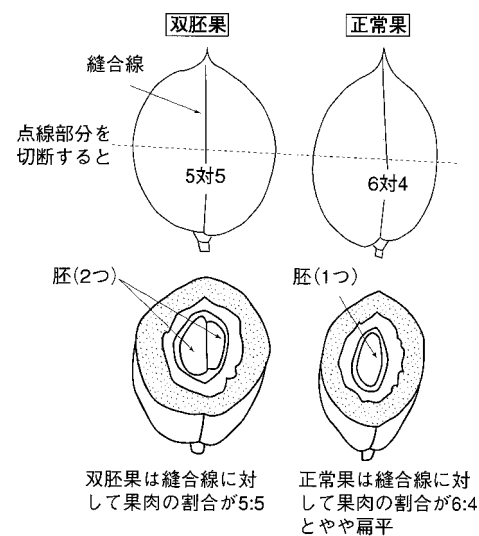


図 3 双胚果と正常果の違い

4、夏季管理

- 日焼け防止

幹の太さが 10cm を超えてくると、日焼けをおこしやすくなるので、農業用ペンキやフジホワイト等をたっぷりと塗布する。また、弱い新梢は日焼け防止に残しておく

- 摘心

背面から発生した徒長枝を 5、6 月に基部から葉 4～5 枚程度で切除する
次年度の結果枝作りや葉枚数の確保、日焼け防止にも繋がる

- ねん枝

次年度への優良な結果枝作りのために必要
長さ 30cm 以上となったものから順次行う ＊図 4 参照

- 誘引

幼木や若木に対して、主枝や亜主枝養成のために行う
樹液の流動が盛んになり、枝がやわらかくなる夏季に実施する

